



教皇庁諸宗教対話評議会

世俗主義の挑戦に共に直面する神道とキリスト教

2017 年

カトリック教会から神道への新年のご挨拶

バチカン市国

## 親愛なる神道の皆様

1. 日本のすべての人々、とりわけ神道の皆様にとって大切な祝日である新年に際し、教皇庁諸宗教対話評議会はあらためて、心からご挨拶申し上げます。この祝日は対話の契りに感謝し、未来を見据えて新たに始めるときでもあります。
2. 今年は新年の挨拶に添えて、西欧諸国と日本の社会における世俗主義の挑戦について皆様と一緒に考えたいと思います。若者をはじめとする現代人の生活の中で、「宗教」はますます重要視されなくなっています。一つの世界観としての世俗主義は、宗教と宗教的考察に対して無関心になったり、否定的になったり無視したりします。そして特に政治、経済、科学、教育といった公的領域から宗教を締め出そうとします。宗教が個人的な領域の中だけに限定されるなら、宗教組織が弱体化するだけでなく、社会全体が、共通善の発展のために宗教がなしうる貢献を失うこととなります。
3. わたしたちはとりわけ「世俗主義の挑戦」によって引き起こされる「文明の危機」の時代に生きてると、聖ヨハネ・パウロ二世は断言し、文明について次のように語りました。文明は「科学技術の観点からは顕著な発展を遂げたものの、内面的には神を忘れ、あるいは遠ざける傾向によって低下しています」（使徒的書簡『紀元 2000 年の到来』52）。「この文明の危機を、……平和、連帯、正義、自由という普遍的価値に基礎をおく『愛の文明』によって乗り越えなければなりません」（同 52）。聖ヨハネ・パウロ二世はこのように語り、弊害だけでなくその解決策も強調しました。
4. 現代の多くの社会は、世俗的で唯物論的な世界的規模の消費文化にとらわれてきました。悲しいことではありますが、多くの自殺は、消費主義に本来備わっている空虚感の現れとして、少なくとも部分的にはとらえることができます。ご存知のように、日本の人々もこの問題のために苦しんでいます。経済危機、少子高齢化、放射能の脅威、さらには今年 4 月に熊本を襲った大地震のような自然災害といった他の問題も、多くの人々に絶望をもたらしています。これらの問題や同様の挑戦に立ち向かうために、わたしたちは自分自身の宗教的伝統である霊的な知恵に向き直らなければなりません。
5. 親愛なる神道の皆様、他の宗教の人々と対話するように、世俗主義者とも対話することによって、世俗主義の挑戦に信仰者として共に立ち向かいましょう。現代の人々、特に若者は、自らが語る価値観を自分の人生であかししている人々のことばに喜んで耳を傾けます。神への信仰心は、日々の生活を通して心から心へと伝わります。したがって、わたしたちの対話は行動を伴うものでなければなりません。すなわち、グローバリゼーションや世俗主義的な制度によって見捨てられた犠牲者、社会の片隅に追いやられ

た人々、貧しい人々、ホームレスの人々を支援する活動です。苦しんでいる人々に信仰者が連帯することにより、その人々は活動を鼓舞し、支えている霊的な源に目を向け、心を開くようになります。

世俗主義を悪者扱いするという誘惑に、信仰者はいとも簡単に屈してしまいます。しかしこの世界の世俗主義者との対話は、わたしたち自身の宗教的信念を深める機会をもたらします。世俗的な立場と宗教的な立場は、多くの具体的な問題に関して異なりますが、わたしたちは共通善を促進するという観点から、協力することができます。世俗主義者を含むすべての人と出会い、協力することによって、信仰者と世俗主義者は兄弟愛を育み、傷ついた世界を新たにするために共に貢献することができるのです。

6. 神道の皆様とキリスト者が共に努力すれば、抑えのきかない唯物主義による苦しみを緩和するために役立つことができることを認識しつつ、この祝日をともに祝いましょう。こうした共通の願いを抱きつつ、改めて皆様と、皆様の家族と共同体に心からご挨拶申し上げます。

お正月おめでとうございます。

*Jean-Louis Card. Tauran*

教皇庁諸宗教対話評議会議長  
ジャン・ルイ・トーラン枢機卿



同次官  
ミゲル・アンヘル・アユソ・ギクソット司教

**PONTIFICAL COUNCIL FOR INTERRELIGIOUS DIALOGUE**

00120 Vatican City

Tel: +39.06.6988 4321

Fax: +39.06.6988 4494

E-mail: [dialogo@interrel.va](mailto:dialogo@interrel.va)

<http://www.pcinterreligious.org/>